

情報のやりとりとしての英語学習支援と、 学習のための英語学習支援の実践例

Helping Students to Use English for Giving/Getting Information and to
Learn English for their Learning

柳瀬 実佳
Mika YANASE

実践女子大学人間社会学部非常勤講師

1. はじめに

英語は情報をやりとりするためにも活用されており、情報のやりとりを超えたコミュニケーションのためにも活用されている。また、英語は人間が学習をするための学問としても存在している。例えばビジネスでも、情報としての英語を的確に理解する英語力と、論理的に自己表現をする英語力、自分の英語表現が相手に伝わるための工夫や思いやり、相手と交渉し、建設的に仕事をすすめるための英語力が必要で、その学習支援が求められている。他方、情報のやりとりを超えた人間同士のコミュニケーションのためには、英語による等身大の自己表現力や、相手の真意を理解すること、心のコミュニケーションのための英語力などが必要で、そのための学習支援も必要である。情報のやり取りのための英語学習支援では、期待されている回答や、すでに存在している正解を出すことが求められる傾向にある。例えば TOEIC で高得点を取得することや、英語によるニュースなどを聞き取ること、相手にアピールする英語プレゼンテーションなどが、その例である。他方、英語を通じた学習のための英語学習は、正解を出すことが目的ではなく、学習者が自分の無知や未知を知っていく世界である。本稿では、現代社会から要求されている、情報のやり取りとしての英語学習支援に、情報のやり取りを超えた英語コミュニケーション力を磨く支援や、英語を通じた学習のための英語学習支援を織り交ぜた授業実践例と、その結果の例をそれぞれ記録して、考察を加える。今後の英語学習支援の探求の進化を目指すものである。

2. 情報のやりとりとしての英語学習支援と学習のための英語学習支援の特徴の例

情報のやりとりとしての英語学習支援では、英語の基礎知識の紹介とその応用を支援することが大切になる。英語による情報の表面上の意味を理解したり、情報を英語で伝える能力を磨くことが、

この学習の目的であるため、それが可能になったかどうかの結果が、学習効果があるかどうかの判断の基準となる。またこれは主に表面的な言語能力を扱うために、即効の学習効果がみられる場合もある。他方、学習のための英語学習や、心のコミュニケーションのための英語学習においては、英語の言語運用能力に加え、人間としての理解力や経験値、知識や教養や成熟度などもその学習対象になる。このためにその学習効果は、学生個人の人間の資質や機が熟すタイミングなどにも左右される側面があり、よってその学習効果がみられる時期も一律ではなく、例えば自分の芽が出ることを長い期間待つ必要のある学生もいる。

前述したように、情報のやりとりとしての英語学習においては、いかに正解を出すか、いかに間違えないか、いかに成功するかなどに焦点を当てるのが大切なものに対して、学習のための英語学習では、いかに自分の無知や間違いに気付くか、失敗してそこからいかに学ぶか、いかに未知の真実に触れていくかなどが、学習の主題になる。

大学や学校における情報のやりとりのための英語学習支援は、限られた時間内に明確な目標を達成する支援でもあるために、学習者に多少の負荷はかかるが、その負荷をもしも学生が請け負うのであれば、前述のように短期間のうちにも効果は現れ易いという特徴がある。他方、この学習方法では効果の出ない学生たちもいる。そのような場合に筆者は、学生が視野を広げてリラックスする環境を心がけている。学生が英語学習における自分の思い込みに気付き、視野が広がるときにその失敗から学ぶ機会となるような英語学習支援を織り交ぜている。

学習者の中には、短期的な視野で目の前の単純な学習目的とともに勉強することに慣れている人たちと、長期的な広い視野を持つことで、むしろ自分を開放することができ、自分を活かして学習が捗る人たちがある。前者は目的達成を学習の目的にしていることが多く、後者は学習そのものに無意識に関心のある可能性がある。大学には様々な学習者がいるため、筆者はこれら二つの学習支援を、両輪として活用している。

次の項より、情報のやりとりとしての英語学習支援と、学習のための英語学習支援の特徴の例をふまえたそれぞれの学習の目的やポイントと、授業の実践例とその結果の例をいくつか記し、考察を加える。なお、筆者が現在まで担当してきた本稿で記す学生たちの英語習熟度は、TOEICのスコアで言うと100～900点強の多岐にわたっているが、大半は250点～650点である。

3. 英語によるコミュニケーション（リスニング）のための学習支援

3. 1. 情報としての英語をリスニングするための学習支援の例

情報としての英語を聞き取るためには、英語の音声や語順の基礎知識を知って応用する必要がある。その学習支援の例を挙げる。

3. 1. 1. 学習支援の目的・ポイントの例

学習の目的：英語の音声の基礎知識を知り、その応用をする。TOEICのリスニングセクションのスコアを上げる。映画英語のレベルの英語を理解する。

学習のポイント：英語の強弱リズムに慣れる。大切な情報は強く発話されるため、そのよく聞こえてくる部分からキャッチして理解する。弱く発音されている聞きづらい部分には機能語が多いが、聞きづらいところを開けるようになるために、まずは弱形で発音されている部分（代名詞・冠詞・接続詞・前置詞・助動詞・関係詞など）を知り、次にそれらの音がどのように変化して聞こえてくるかについて、具体的に知る。また、英語の意味のかたまり（sense group）を見つけて、その sense group ごとに英語の語順のまま読み、聞いて、理解する。これらの基礎知識を応用して、映画英語や TOEIC の英語などを聞き取る練習をする。

3. 1. 2. 授業実践例

英語の強弱リズムに慣れるため、学生は英語による歌を聞きながら歌う。次に、教師（筆者）は英語の音声や語順の基礎知識を紹介する。その後、小テストとして、学生は映画や TOEIC などのリスニングをして、英語の 1 文全てを英語で書き取るディクテーション問題と、英語の 1 文全ての意味を日本語で書き取る問題を、それぞれ解く。この時英語や日本語では書き取れない学生は、聞こえてきたままの英語の音をカタカナでメモする。小テストの直後に学生は英語の音声と語順の基礎知識を参照して、自分の解答と見比べる。小テストを提出後、例えばなぜ “It’s up here” という映画の台詞を、自分は「ツァピアー」とカタカナでメモしたのかなどについて、教師（筆者）からアドバイスを受ける。この一連の作業により、学生は英語の音の繋がりや音声の変化に慣れるための知識を得て、それを応用して英語を聞き取る練習をする。次に学生は、英語の語順で意味を理解しながら、音読をし、リピート練習をし、シャドーイングをする。最終的には英文を読まずに、ただ英語をきいただけで、英語の語順で意味を理解しつつシャドーイングができるところまで、繰り返して練習をする。

また、TOEIC のリスニング問題の傾向を知り、その問題を解いてリスニング力を磨く。TOEIC の問題の本文についても、英語の語順で理解しつつシャドーイングなどをして、聞き取れるようにする。

3. 1. 3. 結果

多くの学生が映画や TOEIC のレベルの英語のリスニングには慣れていないため、この方法で英語の音声や語順の基礎を学生たちに紹介することは有効であった。短期間での学習効果を祈願して、初回の授業から英語の強弱リズムや音声と語順の基礎知識を紹介し、学生がすぐにその知識を応用する支援をしたが、そのことにより、英語を聞き取るコツを早くからつかむ学生も増えた。他方、授業開始以前にすでに英語学習への興味が失われていたり、英語に恐怖心や嫌悪感を抱いていた学生たちの中には、このように基礎知識を情報として次々と与えるような学習支援に、あまり興味を持っていない様子もみられた。また、学生へのアンケートによると、前述の小テストの受験にあたり、授業で紹介したような、徐々に英語を聞き取ることを目指す学習プロセスをへずに、出題対象になっている英文を丸暗記してから受験している人たちも少数いた。恐らく受験勉強の習慣からであろうが、このデータから、試験でよい成績をとる目的が、英語を学習する目的に（無意識に）取って代っ

ている様子のみられる学生もいるという結果もでた。他方、この方法で英語学習のこつを自分なりにつかんで、自発的に授業外の自主学習につなげている学生たちもいた。

3. 1. 4. 考察

例えば TOEIC で高得点を取得するなどという明確な目的を持っている学生には、前述の方法は効果的であるが、英語学習そのものへの興味が無い学生や、もう少し広い視野で英語を知って活用していきたいという希望を持つ学生にとっては、この学習支援は空回りする傾向がある。よって筆者は、次に記すような学習のためのリスニング学習支援を織り交ぜて授業をしている。

3. 2. コミュニケーションや学習のための英語リスニングの学習支援の例

3. 2. 1. 学習支援の目的・ポイントの例

学習の目的：英語の語学力だけではなく、推測力や想像力などをはじめ、すでに自分に有るものを活かす。英語の広い世界を知る。自分の思い込みを知って視野を広げ、自分で自分の学習目的を決める。英語の音声や語順の基礎知識を知る。それを応用してみる。自分で問題解決を試みる。正解を出すよりも、英語の世界に触れたり、理解しようとする。TOEIC のリスニングセクションのスコアを上げる。映画英語レベルの英語を理解する。

学習のポイント：3. 1. 1. の項で記したものと同様に、英語の音声と語順の基礎知識を知って応用するが、はじめに英語の広い世界に少し触れたあとで、その基礎知識の紹介を受ける。その後、3. 1. 2. の項で記したように、同じく小テストなどを活用してその基礎知識を応用したのち、英語を聞き取るための問題解決について、自分で思考する機会を持つ。

3. 2. 2. 授業実践例

まずは、自分の英語の語学力だけを活用して英語の字面を追うこと以外にも、推測力など自分に有るものを全て活かすことで、英語の広い世界に触れて理解することが可能なことを、学生に紹介する。これを体感する目的で、学生はクラシック音楽などの歌詞のない音楽を短時間きいて、その世界観を肌で感じる時を持つ。次に英語の歌詞のある歌を、クラシック音楽を聞いたときと同様に肌で感じるように聞く。このとき学生は、自分の英語の語学力のみに頼るよりも、むしろその楽曲の曲調やリズムをはじめ、英語のリズムや流れ、声のトーンや間の取り方、発音の雰囲気などを感じて、その唄の描いているおおまかな世界観を感じようとする。

次に、英語による洋画などを、日本語字幕を出さずに英語音声と共に観て、大まかなストーリーを把握する体験をする。このときも学生は自分の語学力に頼るだけではなく、登場人物たちの表情や声のトーン、話の間合いやシチュエーションなどにも注目し、想像力や推測力など、自分に有るものを活かして理解しようとする。

その後、英語の歌詞のついたなるべくテンポのよい音楽を、学生が聞きながら一緒に歌うことで、学生が英語の強弱リズムを体得する支援をする。次に、情報としての英語をリスニングするための学習支援についての項で前述したように、英語の音声と語順の基礎知識を紹介し、それを暗記

させるのではなく、理解してもらおう。英語の歌詞の一文をみて、その中のどの情報（単語）が大切か、学生自身に考えてもらおう。この基礎知識を紹介した後、映画や TOEIC などのリスニングをして、英語の 1 文全てを英語で書き取るディクテーションと、英語の 1 文全ての意味を日本語で書く問題を、小テストとして解く。なお、この解答の際に英語や日本語では書き取れない学生は、英語の音を聞こえてきたままカタカナでメモする。小テストの直後に、学生は英語の音声と語順の基礎知識を参照して自分の解答と見比べ、例えばなぜ “It’s up here” という映画の台詞を、自分は「ツァピアー」とカタカナでメモしたのかなどについて、まずは自分で考えてみる。その後教師（筆者）からそれについてのアドバイス（この場合には、代名詞（It）と be 動詞が弱く発話された結果、聞こえなかったり繋がったりして音が変わる（つまり、It’s の「ツ」の音のみがはっきりと聞こえてくる）ことや、語尾の子音はそのそばにある母音と音が繋がって音が変わる（つまり、up here の p の音がその後の e の母音と繋がってきこえ、結果として「アピア」のように聞こえる））を各々受ける。なお、ここで学生が参照する英語の音声の基礎知識については、シンプルに 3 つにまとめて事前に紹介している。また、学生の学習方法や、英語に関する疑問についても学生にアンケートをとったのち、今後の英語学習についてのアドバイスを学生に提供する。また学生は、英語の音の繋がりがや音声の変化に慣れる目的で、英語の語順で意味を理解しながら音読をし、リピート練習をし、シャドーイングをする。最終的には英文を読まずに、ただ英語をきいただけで、英語の語順で意味を理解しつつシャドーイングができることを目指すが、一度に無理な回数のシャドーイングの練習をするのは控える。（学生が自分の学習意欲の鮮度を保てる範囲で、一度につき程々の回数のみ集中してシャドーイングをすることをすすめている。）また、授業で扱う映画や TOEIC をはじめとした教材以外にも、学生が自分で興味をもって聞いてみたい英語による音楽や映画をはじめとするリスニングの教材を、学生自身に見つけてもらおう。後日この自主学習に関する課題のレポートを（任意で）提出してもらおう。

学生はまた、TOEIC の問題なども活用してリスニング力を磨く。

3. 2. 3. 結果

受験勉強の詰め込み方式しか知らず、それに辟易した結果、すでに英語学習への興味を失っていた学生や、英語学習への劣等感や恐怖心を持っていた学生には、無理をして知識を詰め込む必要はなく、すでに自分の持っている推測力などを活用するとよいなどの視点を紹介したことで、余計な力が抜けて自分を最良に活かし始めたのか、この方法は大変に効果があった。1 年間の授業後に、最大で TOEIC のスコアが 300 点上がった学生もいた。また、英語が好きで、より広い英語の世界に触れたい、英語学習をすすめたい、という向上心のある学生たちにも、この方法は大変に効果があった。他方、英語を机上の受験勉強のように学ぶことのみが、唯一の英語学習法だと思い込んで、その方法を気に入っている学生たちには、ただ英語（の音楽や映画）をきいて、おおまかな流れや世界観をキャッチすることの意義を伝えるのに、苦労があった。（その際には、英語の表面的な意味を追うよりも、その世界観を感じ取る方が、相手の伝えたいことの真意を理解しやすい事実も伝えた。（例えば、「今日は暑いですね」という会話なども、発話者が暑い気候が好きなのか嫌いな

かによって、「今日は暑い」ことを喜んでいるのか嫌がっているのかの、発話者の意図や気持ちが異なり、それを的確に感じ取り理解するには、声のトーンや表情などの発話者全体から発せられる表現を、肌で感じる必要があるで、語学力の活用だけでは難しい事実を伝えている。))

また、英語の問題に即答をする勉強法に馴染みのある学生にとっては、日本語字幕を見ずに、映画の英語の台詞を推測しておおまかなストーリーをキャッチすることは、苦痛であった様子もみられた。つまり即答を好む学生には、自分がすぐにはわからないものや理解しきれないものを、10分～60分以上見せられていることは、自分のプライドに関わり、これに慣れるまではストレスになるようであった。しかし大抵の場合、学生が英語学習のために海外留学をするとき、自分がすぐにはわからない英語の溢れる中で、どこまで自分に有るものを全て活かして理解していくかが肝心となる。この事実を学生に伝え、外国語学習には、自分がすぐにはわからないことへの忍耐力が肝心であることも伝えると、時間をかけて少しずつこの作業に慣れていく学生の数が増えた。近年は時代の変化も手伝って、要領のよい器用な学生が増えているため、自分がすぐにできないこと、すぐに達成できないことへのストレスのかかり方は、5～10年以上前の大学生よりも強いように観察される。

この学習方法が自分にあっている学生たちのほとんどは、一年間の学習後に、TOEICのスコアが50点～300点の伸び幅でそれぞれ上がるなどの効果を体験していた。他方、自分の受験勉強法に自信と誇りがあり、英語の広い世界を知るよりも、自分のすでに知っている英語の世界の中だけで学習効果をあげたいと希望する学生には、むしろ前述の情報のための英語学習支援に徹した方が、快適そうであった。これらの学生は、一年間で大幅なTOEICスコアの伸び幅は見られなかったが、それ相応にスコアを伸ばしていた。

また、英語を聞き取るためにはどうしたらよいかを学生が考えるとき、まずは自分の現状を知り、自分で問題を解決しようとする機会を持ったことで、英語習熟度における上級者は勿論、初級者も、自分で学習をすすめるための手掛かりを得た様子だった。

またTOEICの問題を活用してリスニング力を磨く学習支援においては、例えば筆者が少しスピードを落として問題を音読する支援などを加えることで、TOEICのリスニング問題に歯が立たずに諦めがちだった学生などには、効果的だった。

3. 2. 4. 考察

学習のための英語学習支援は、学生が今の自分自身を活かすことをはじめ、なるべく理にかなうことを目指した学習支援であるが、学習者の現状を観察しつつ、情報のやり取りとしての英語学習支援と併用して活用することが効果的であると認識している。またこの英語学習支援においては特に、学生が一律に英語学習に興味を持つことの支援ではなく、それぞれの学生が、英語学習を通して自分を知ることや、自分の選択をしていくことの支援である。そのため、情報のやり取りのための英語の世界よりも広い英語の世界に触れた学生が、もしも英語学習を通して自分の視野を広げるきっかけを得たならば、それも大きな学習効果の一つであるように筆者は認識している。また、結果として筆者が担当した学生の大多数（近年においては、例年例えば360名中340名（約94%）

から450名中380名(約84%)などの学生が、この学習のための英語学習支援を大なり小なり活かしている傾向にあるが、授業終了後に学習効果の出ることもあるため、その意味で厳密なデータは入手されていない。

また、グローバル社会に生きる学生の英語学習支援を考えると、学生が自分や事実を知り、自分自身で考えて、自分の責任において選択と判断をして、健康的・建設的な思考で生きていく支援に繋がるものであることも大切である。学習のための英語学習支援は、英語の語学力向上のための支援に加えて、学生の人間としての学習を尊重するものであるため有意義である。しかしこれには、学生と教師それぞれの人間としての成長や精進が欠かせないために、実践が容易ではない側面もあると筆者は実感している。これらをふまえて、最良で有意義な学習支援を今後も探究していく所存である。

4. 英語によるコミュニケーション（自己表現—会話、プレゼンテーション、ディスカッション、ライティングなど）のための学習支援

4. 1. 英語によるプレゼンテーションや会話などをはじめ、情報を表現するための学習支援の例

4. 1. 1. 学習支援の目的・ポイントの例

学習の目的：英語で日常会話をする。英語で論理的に話す／書く。英語で自分の意見を言う。英語で事実などを描写する。あるテーマに基づいて、英語で話し合う。

学習のポイント：日常会話に必要な英語の知識や、自己表現を論理的にするためのライティングの知識（英語の起承転結についてなど）やプレゼンテーションのための知識、英語でディスカッションするために必要な英語表現などを学習し、応用する。

4. 1. 2. 授業実践例

日常の英会話の練習をする際に、例えば(レストランにて、やオフィスにてなどの)シチュエーションごとや、(申し出る、感謝する、提案する、などの)機能ごとに活用される英語表現例を紹介し、シャドーイングなどで学生がそれらの表現に慣れる支援をする。また、学生は自分を英語で表現するために、自分の英語表現ノートを作成する。そのノートには、授業内外に英語で表現することができなかった自分の話をメモして、辞書などを活用して自分でその英語表現を考えて書き加える。その後、必要に応じて教師に質問して、自分のオリジナルの自己表現英語ノートを作成する。

また、先の項で記したような、洋画などを活用したりリスニング学習の際に、英語で自己表現するために活用したい英語表現を見つけて、学習する。英会話に必要な文法については、TOEICの英文法や、洋画などの台詞で使用されている英文法を学習する。

また、会話やディスカッション、プレゼンテーションなどの際に、もしも学生の英語が通じなかった場合は、英語の sense group ごとに少し間をとったり、大切な情報を丁寧に発音するなど、英語の強弱リズムを活用するとよいことを伝えている。さらに、日本語にはない英語の代表的な6つの発音（無声音と有声音の th と、f, v, l, r の発音）をとりあげ、その発音練習をする。30名以下

の少人数クラスの場合には、一人ひとり指導する。その後これらの発音の練習をする目的で、学生は英語の歌詞の音楽を聴きながら歌う。英語は音楽的な言語で、その音で意味を表現している側面があるが、学生の中には、英語の発音や音声面にあまり目を向けたことのない人たちもいる。そのような学生が将来、自分の表現を相手に伝えようという気持ちを持ってなお、もしも外国の人に伝わらないときには、例えばこれらの6つの発音だけでも丁寧に発音をすると、問題が解決する可能性もあることを伝えている。

4. 1. 3. 結果

英語の日常会話の例を知ることや、すぐに辞書に頼らずに、すでに自分の持っている英語力を活用して自己表現をすることを積み上げる学習を続けると、学生はある程度英語で会話ができる見込みがついたり、自己表現や会話が英語のできる希望を感じる傾向があった。他方、英語による会話力や自己表現力を磨くには、実際には次の稿で述べるような、自分に向き合って自分を整理して英語で自己表現をすることや、相手の真意を理解しようとすることをはじめとした様々なことも必要なことを、直感で認識している学生も少なくなく、この学習だけでどこまで英語による自己表現力が磨かれるのか、自信のない様子もみられた。他方、あるテーマに基づいた自分の意見を英語のライティングでまとめてからディスカッションしたり、ライティングした原稿をもとに英語でプレゼンテーションをするなどの練習については、その学習目的が具体的なこともあり、ある程度の満足感や達成感を得ている学生が多いように観察された。

半年間や1年間の授業期間では、学生が自由自在に的確な英語による自己表現力を磨くことは、当然難しい。しかし学生の中には、授業を通して海外留学を志したり、個人的に英会話学校にも通うなど、自分で英語の表現力や会話力を磨く道を切り開いている人たちもいた。

4. 1. 4. 考察

日本語が使われている日本にしながら、英語による高い次元の自己表現力や会話力を磨くことは、容易ではない。そのため筆者の授業では、まずは学生が自分を整理して、英語による自己表現をすることで、効率的な英語表現の学習に繋げるよう、支援している。また、英語表現力を磨くことに貪欲な学生には、英語圏への海外留学をすすめている。他方、外国よりも日本が好きだが、英語力を磨きたいという希望を持つ学生も少なくない。そのため筆者は、外国人に紹介したい自国の文化を学生が選んで、自分の経験に基いた自国文化の紹介を英語で行う支援をしている。自国の伝統的な文化を尊重し、大切にしたいという思いがあることで、学生が自分の起源を知って等身大の自己表現をすることも可能になる。学生が自分自身や自国の文化の本質などを知っていくきっかけの一つになれば、と希望している。

また、学生が英語で自己表現をしたり、自分の意見や感想を述べる際に、すぐに口頭で話さずに、まずは英語で書いて、紙面の上で自分を整理してから、口頭で自己表現をする練習も行っている。この時筆者は、各学生の文法や語法などについてもアドバイスをしている。かつて筆者は学生の英語によるプレゼンテーションの原稿を細部まで添削して修正していた。しかし学生たちはかえって

辟易してしまい、さほど文法や語法の学習はしていなかった。短期間に効果的な授業を目指して、あまり多くの知識や情報を学生に詰め込むような方法ばかりをとり続けるのは、多くの場合かえって効果が現れなかったことを実感している。他方、詰め込み勉強に慣れていてそれを好む学生は、短期間に多くの知識を紹介しても、それ相応に効果を上げている。しかしこれをさらに観察すると、丸暗記するなどの方法で学生は自分に無理を強いているために、人間としての会話力を磨くという目的から次第にそれてしまい、ゲーム感覚で自分の英語表現力を磨くことや、相手の話す英語を理解したいために理解するのではなく、相手の英語を理解できたときの自分の達成感のために、相手の話を理解することなどが、無意識に学習の目的になっている傾向があった。この場合、学生の英語の語学力や英語運用能力は磨かれても、その英語を運用する学生の人間性の成長が伴わない可能性があり、この問題点の解決として、筆者は次の項に記すような視点からの学習支援を併用している。

4. 2. 英語による自己表現や心のコミュニケーションを目的とした英語学習支援の例

4. 2. 1. 学習支援の目的・ポイントの例

学習の目的・ポイント：英語で会話をするためにも、等身大の自分を知ってそれを英語で表現し、相手を理解しようとする気持ちを大切に、相手の真意をキャッチするなどの学習をする。4. 1. 1. の項で前述の英語による論理的な自己表現のための学習にとどまらず、自分の現状や気持ちをそのまま英語で表現するなど、型にはめすぎない開放した自分を、口頭でと、ライティングにて表現する機会を持つ。また、学生が自分自身を知るために、例えば映画や書物など、何か英語で表現されているものに自ら触れて、それを自分はどう感じたかなどについて英語で表現する（このことにより、教材とのコミュニケーションをとってみる）。また、与えられたテーマで英語によるディスカッションをするのみならず、自分の関心のあるテーマについて、情報レベルでではなく、できるだけ実際に自分が経験したことに基づいて、英語で話し合う。その際に、他の人たちがどのような意見であっても、例えば賛同せずともそのまま肯定することを心掛ける。（このように、自尊と他への尊重を大切に、英語で会話をする。）

4. 2. 2. 授業実践例

前項の「英語によるプレゼンテーションや会話などをはじめ、情報を表現するための学習支援」で述べたように、日常の英会話のための表現の学習や、学生自身の自己表現のためのノートの作成などの支援をする。それに加えて、学生がすでに持っている英語力を最大に活かす支援をする。具体的には、学生が自分の伝えたい内容をすぐに英語で表現できないとき、その日本語を別の視点から見直してみ、手持ちの英語で表現をしてみる練習をする。例えば（簡素化した例を挙げると）、「私は果物に目がありません」と言いたい学生がすぐにこれを英語にできない場合、「私は果物が大好きです（I love fruits.）」と、自分の手持ちの英語で表現し得る日本語に置き換えていくことなどを、紹介する。

また、学生が英語でプレゼンテーションをする際などにも、英語の起承転結の知識や、聴衆が聞

きやすいプレゼンテーションの工夫などについても紹介している。さらに、学生が自分自身の「色」を認識してから、それを英語で表現することが大切であることについても紹介している。この紹介の際には、例えば元気一杯で明るく朗々と歌い上げる英語の曲と、穏やかにとつとつと語るように唄う英語の曲をそれぞれ学生に聞いてもらう。両方ともテーマが同じ（例えば、感謝の気持ちや愛情を表現している、など）であるにもかかわらず、それぞれ異なる空気感で表現されていることを、学生に体感してもらう。学生にもそれぞれその人らしさがあり、またその時々で伝えたい内容も気持ちも変化する。そのため、その時々本来の自分自身の色やトーンを自覚して、それをそのまま表現する英語の学習と、自分の声のトーンや間やリズム感を知り、自分の話し方や書き方を探究することを学生にすすめ、必要に応じてアドバイスをしている。

また、自分の英語が相手に通じづらいときには、前項で述べたように英語の sense group を意識して話すことや、自分が伝えたい部分の英語を丁寧に発音して英語の強弱のリズムに則ることを紹介しているが、何よりも、相手に伝えようとする自分の気持ちをまずは大切にすることをすすめている。学生がそれぞれ自分で工夫して英語で自己表現をするのを、教師として見守ることも心がけている。また、前述の日本語にはない英語の6つの発音（無声音と有声音の th と、f, v, l, r の発音）の紹介と指導も行うが、学習のための英語学習支援においては、この練習も程々にしている。このような英語本来の法則に則れば、その英語を理解しやすいと感じる人も増えるためである。筆者は学生の選択を尊重しつつ、相手に伝わる英語力を学生が磨く支援を心がけているために、学生が皆一律に英語の正確な発音が完全にできるところまでは、この練習を強いてはいない。ただし、筆者もそうであるが、米・英語等の発音を美しいと感じていたり、その発音に強い興味を持っているような学生には、必要に応じて発音についてのアドバイスも追加する。

4. 2. 3. 結果

4. 1. の項の学習支援と同じものをベースにしているが、教師（筆者）の心持ちとして、学生が学び習うであろう時期を、こちらで勝手に決め付けることをせずに、それぞれの学生が、それぞれに機が熟したときに、自然と学習するのをただ待つことに徹した点で、授業の雰囲気は、「情報としての英語の学習支援」の授業のそれとは異なるものになった。学生に無理なプレッシャーをかけなくて済むために、学生の方もリラックスして、その結果、自己表現を自由にしやすいような様子が観察された。また、情報としての英語学習支援では、短期間で効果を求めがちであるために、学生も正解を出そうとするが、この学習のための英語学習支援においては、学生が何度も間違えつつ学ぶことを支援しているため、学生も穏やかに学習している様子が多く見られた。学習効果は、前の項で記したように詰め込んで指導したときと、さほど違いはなかった。

4. 2. 4. 考察

学生が、等身大の今の自分を英語で表現することに丁寧に向き合う時間を持つことで、背伸びをしない実のある英語による自己表現の学習体験をする機会を提供した。具体的には、まず例を挙げてから学生がそれに従うよりも、学生が自分に向き合って整理をして、自分自身の英語表現を自分

の中から見つけることを支援したために、受験勉強の要領で例題に従って詰め込む勉強を好む学生には、この学習法に慣れるまでには多少の不安感があったように見受けられた。そのため学生が学習の要点を理解するための支援として、できるだけ全体像を伝えるような例を挙げた。例えば英語によるプレゼンテーションの授業の際に提示した例としては、ビジネス界の実業家や政治家、芸術家やアスリート、学者や俳優、皇室・王室の人々や、あるいはマザー・テレサなどの倫理に則した人物など、様々な分野の人たちのプレゼンテーションの映像を学生に見せた（これらの例の中には、日本人が英語でプレゼンテーションをしているものも含む）。これにより、学生も自分の立場に立ち、自分の等身大で、自分らしく自己表現することの大切なことを紹介している。

情報としての英語学習支援で実践している様に、学生がすぐに活用できるような例を挙げると、多くの学生がすぐに作業が出来るという利点がある。他方この学習のための英語学習支援では、学生がすぐに使えるような例はあえて挙げずに、ヒントを得た学生が、自問自答して自分で英語の自己表現を見つけていく機会を設けている。教師の指示通りには動けるが、自ら思考することには不慣れな学生が、近年は増加している傾向もある。今後も担当するクラスごとの学生の状態などを観察して、これらの二つの学習支援の比率を考えつつ、最良の学習支援を探究していく所存である。

5. 英語の基礎知識（文法・英単語・語法）を知って活用するための学習支援

5. 1. TOEIC を活用した情報のやりとりのための英語基礎文法の学習支援の例

5. 1. 1. 学習支援の目的・ポイントの例

学習の目的:TOEIC のスコアを上げるためにも、英語の文法や語法の基礎知識を知り、応用する。英語の単語学習法の例を知り、また英語の接頭辞や接尾辞の知識を学んで応用する。

学習のポイント：基礎英文法や TOEIC ででてくる語法などを学習する。接頭辞・接尾辞の知識を学び、それらの知識を応用して、単語の意味を推測する。辞書の見方の例を知る。TOEIC の受験対策として、英語を理解するための要点を学ぶ。

5. 1. 2. 授業実践例

TOEIC の教材などを活用して、英語の基礎文法を紹介する。すぐに問題を解いてその知識を応用する。授業でこまめに小テストなどをして、学生が基礎文法力を身につける支援をする。また、学生が英語の単語や熟語を学習する際に、必ず文脈からその意味を推測する機会を設ける。それでも推測ができなかった場合には、辞書を活用することを紹介している。辞書に載っている単語の意味については、辞書に区別されて載っている意味全てに目を通し、その中の中心的な意味を見つける練習をする。このように英語の本質的な意味を一つか二つに整理して理解することで、暗記作業の負担が軽減する。またこの学習法により、ある単語が様々な文脈にあっても、その意味を推測するための基礎を学生は築くことが可能になる。なお、暗記が好きな学生には、無理にこの方法を強いることはせずに、暗記方法でどこまで英語力を伸ばせるのか、学生が体験するのを見守ってい

る。反対に、暗記が嫌いな学生には、この単語の暗記ではなく単語の理解をする学習方法をすすめている。また、接頭辞と接尾辞についても紹介し、その知識を活用して英語の品詞を見分けたり、単語の意味を推測する学習支援を頻繁に行っている。

5. 1. 3. 結果

短期間で TOEIC のスコアを上げるのに最も効果的な学習法の一つに、英語の基礎文法の学習が挙げられる。TOEIC で問われる英語の基礎文法は、その数に限りがあるためである。文法の学習に焦点を当てることで、(5点～995点で採点される) TOEIC で 900 点台のスコアを取得した学生たちもいた。他方、受験勉強に辟易している学生などは、はじめからあまり文法学習に興味がなく、そのような学生には、むしろ映画の英語を聞き取る際や、英語で自己表現をする際に必要になってくる英文法を紹介することで、学習が捗る様子も見られた。また、英単語や英熟語の学習方法として、暗記することを王道ととらえている学生たちには、英単語の本質的な意味を理解する作業は、感覚を使う必要があるために、難しそう様子も見られた。接頭辞と接尾辞の知識を活用して、その品詞を判断し、またその単語の意味を推測することについては、多くの学生がすぐに慣れていった様子が観察された。

5. 1. 4. 考察

過去に暗記学習に頼ってきた学生にとっては、英語の単語や熟語の本質的な意味を理解するための辞書の見方や、そのこつ的感覺をつかむことが難しいようであった。そのため筆者は、学生自身に自由に単語を選んでもらい、その選んだ単語の本質的な意味をつかむ練習を数回積み上げてもらうことを試みた。必要に応じてアドバイスをした結果、ほとんどの学生が遅くとも3回目には、その単語の本質的な意味をつかみ始めていた。また TOEIC 受験では、3. の項で記した学習法などでリスニング力を磨いてスコアアップした学生も多く、その学生の中には、文法学習への興味は二の次である人たちもいることが観察された。そのため筆者は、次の項で記すように、英語の文法と英語の文化との関係なども紹介することで、そのような学生たちも、英語のもっと深い世界に触れることで、これまでとは異なる視野に立って英文法の学習をするような支援をしている。学生によって様々な現状がみられるため、今後も多角的に学習支援を探究・実践する必要性を実感している。

5. 2. TOEIC を活用した情報のやりとりを超えた英語の世界の学習支援の例

5. 2. 1. 学習支援の目的・ポイントの例

学習の目的: TOEIC のスコアを上げるためにも、英語の文法や語法の基礎知識を知り、応用する。英単語の本質を感じる機会を持つ。英語の接頭辞や接尾辞の知識を学んで応用する。

学習のポイント: 基礎英文法や TOEIC ででてくる語法などを学習する。接頭辞・接尾辞の知識を学び、それらの知識を応用して、単語の意味を推測する。また、その音から英単語の意味を推測する。辞書の見方の例を知る際などに、英語の本質を感じ、理解する機会を持つ。TOEIC の受験対策としてのみならず、英語を理解する際に、その要点を理解することが大切であることを知る。

5. 2. 2. 授業実践例

5. 1. 2. の項で記したような授業に加え、TOEIC 教材のみならず映画英語なども活用して、英語の基礎文法を紹介する。また、例えば TOEIC 教材で文法を紹介する際にも、なぜそのような文法が存在するのかについて、多少その文化や伝統に触れつつ紹介することも織り交ぜている。(例えば、英語には時制を一致させたり、and などの接続詞の左右などの英語の形式を揃える文法がある。これは、欧米文化が自然をそのまま愛でる伝統的な日本文化とは異なり、(フランスなどの左右対称の庭園などにもみられるように)むしろシンメトリックな美を好む伝統があることにも関係することについて紹介をしている。)また、英語の単語学習については前の項で記したことと同じ支援をしているが、英語は音でその意味を表現している側面が有ることも、加えて紹介している。例えば snap の発音が、日本語で言う「パチン、ポキッ、ピシッ」などの音と重なって聞こえてくるような感性のある学生には、その能力を活用してもらい、それ以外の学生には、英語の音からもその意味を推測できることを、折に触れて具体例を挙げつつ紹介している。

5. 2. 3. 結果

受験勉強に辟易していたり、暗記学習を好まない学生たちの多くには、これらの学習支援は歓迎され、また効果的であった。また、受験勉強を受け入れてきた学生で、さらに英語学習を進めたいという向上心のある学生たちにも歓迎された。他方、詰め込み勉強や暗記による勉強が最良の学習法と決め込んでいる学生たちは、あまり興味を示さなかった。この学習支援に興味を持った学生の多くは、筆者のリスニングの学習支援なども得て、英語の音やリズム、その流れなどに慣れて、文脈から推測して英語を聞き取る能力も効果的に磨いている傾向が有り、リスニング問題で大幅にスコアを伸ばしている傾向がみられた。そのような学生たちの TOEIC 全体のスコアは上がっていたが、文法問題については横ばいだった学生も少なくなかった。

5. 2. 4. 考察

TOEIC におけるスコアアップが学習目的の場合、どのような学習方法でもその効果にはあまり違いはない。他方、英語の本質を理解することは、英語の基礎力を磨くことでもあり、また様々な状況下における英語の運用能力や、最終的な英語習熟度には、必ず大きく貢献するものである。多くの大学生が、高校まではほとんど触れることのなかったこの英語の世界観に触れることは、意義があると筆者は認識しているが、やはり学生の現状や資質・性質を観察しつつ、最良の学習支援を探究していくことが大切であると実感している。また、学習のための英語学習支援における文法などの学習効果が現れる時期についても、授業期間内のみならず、授業期間終了後や、学生によってはその数年後になる可能性もある。そのため筆者は、いつ学生の芽が出るかはわからないと認識している。短期的視野に立った学習効果を強く望む場合には、前の項に記したような、詰め込み勉強や暗記の多用も効果的であるが、これは人間の学習効果ではなく、英語の技術についてのみの学習効果を狙うものである。これらの事実をふまえて、学生のニーズや、大学の意義などを考慮しつつ、

大学全体での最良の学習支援の探究が大切であると筆者は認識している。筆者はまた個人でも、この探究を続ける所存である。

6. 英語で書かれたものを理解する（リーディングの）ための学習支援

6. 1. 情報として英語で書かれたものを読んで理解するための学習支援の例

6. 1. 1. 学習支援の目的・ポイントの例

学習の目的：英語の語順で英語を読むことに慣れる。文脈から単語の意味や文章の内容を推測する。本文の要点や趣旨を理解する。リスニング学習を併用して、英語のリーディング力を磨く。

学習のポイント：英語の sense group ごとに、英語の語順で意味を理解しながら、英語を聞いたり読んだりする。例えば映画英語や TOEIC の問題などを教材にしたリスニング学習を併用する。このことにより、英語のネイティブスピーカーの発話の速度で英文を読むことが可能になる。また、文章の内容を文脈から推測し、要旨をつかむ。英語の本文全体の流れをつかむ。英語の起承転結などの段落の構成について知る。

6. 1. 2. 授業実践例

教科書などの説明文を読む場合には、まずは第1段落や最終段落などを読んで主題や大意をつかむ支援をする。また、詳細情報が書かれている第2段落以降については、各段落の始めのほうの文を読み、各段落の主題をつかむ支援をする。次に、英語の sense group の知識を活用して、英語の語順で英文を丁寧に読むことを支援する。また、TOEIC や映画英語なども活用して、英語の語順で英語を聞き取る学習をしつつ、その英語を読み取る学習支援をする。

6. 1. 3. 結果

この学習を積み上げることで、説明文の要旨をつかんだり、英語の語順で読み取る学生の能力が少しずつ磨かれていく様子がみられた。また、リスニング学習と併用することにより、学生が五感を活用して英語を読む支援にもつながった。学生が英語のリーディング学習だけに集中できる時間は、30分から1時間くらいであることが多いため、リスニング学習を短時間さしはさむことで、リーディングの学習も効率的になった。また、主に映画や TOEIC などのレベルの英語をききとる学習を併用したことで、学生にとっての英語の速読力も磨かれる傾向が見られた。TOEIC 受験の傾向と対策の情報を提供し、英語の基礎知識を活用する支援をすることで、TOEIC の本文などを読みとり設問に解答する能力の上った学生たちもいた。また、文脈から単語の意味や文章の内容を推測する学習支援についても、少しずつ効果が見られた。

6. 1. 4. 考察

情報のやりとりとしての英語学習支援としては、教材は主に説明文を活用した。そのため次の項

に記すような英語の行間を読むような学習支援は行わなかった。また、リスニング力とあわせて磨くリーディング力のための学習支援は、相乗効果があり大変に有効であった。また、授業内試験の際にも、筆者は英語の語順のまま日本語訳を書いて解答することを学生にすすめているため、英語の語順での理解力も少しずつ磨かれている様子も見られた。漢字を用いる日常を送る日本人の多くは、言葉を絵画的に理解している可能性もあるために、英語を目で確認することのできないリスニング学習よりも、リーディング学習を心安く感じている学生も多い。他方、英語は漢字よりもむしろ音楽や日本の和歌のように、流れる音で表現されている世界でもある。そのため、絵画的に物事を目で理解する性質の学生への英語学習支援については、今後の研究が必要であるが、少なくともリスニング学習と併用することは、そのような学生の学習支援にもある程度貢献している可能性がある。

6. 2. 情報を超えた英語の世界を読む学習支援の例

6. 2. 1. 学習支援の目的・ポイントの例

学習の目的：前述の「情報として英語で書かれたものを読んで理解するための学習支援」の項に挙げたもの。それに加えて、説明文以外の英語やその行間を読み取る学習をする。

学習のポイント：前述の「情報として英語で書かれたものを読んで理解するための学習支援」の項に挙げたもの。また、説明文以外の英語やその行間を読み取る。例えば倫理に関する書物など(聖書や童話など)をはじめ、その真意や行間が(すぐには)読み取れないものも、英語の世界にも存在することを知る。

6. 2. 2. 授業実践例

前述の「情報として英語で書かれたものを読んで理解するための学習支援」の項で記した支援を行う。映画英語や説明文に加えて、文学作品や童話なども教材として扱う。学生の英語習熟度にあわせて、例えばアンデルセン童話の英語版(英語学習者用に簡略化されていない英語への翻訳本)を筆者が読み聞かせる。よく知られた作品を選ぶことで、学生がその内容の大意をつかむことを支援したり、あるいはあまり知られていない作品をあえて紹介することで、学生たちがその内容を推測する機会を設けたりする。童話やその他の文学作品のように、説明文とは異なり、その行間を感じ取ることが必要な英語にも触れる機会を、学生に提供する。特に倫理に関する書物は、筆者も理解していないものが多いため、勝手に解釈はつけず、ただ英語の表面上の意味を直訳して内容を読み取る支援をする。また、学生も音読をしたりして、本文のリズムや世界観を自分で感じ取る機会を持つ。

6. 2. 3. 結果

授業で紹介した説明文以外の文学作品などの英語の読み物を読むことに興味を示す学生も少なかつた。英語の本文の真意を理解するために、行間を読み取ろうとすることも大切なことを知って、英語を読み取ることを、ただの作業よりも有意義なことであると感じる学生も、若干増えていた。

6. 2. 4. 考察

英文の要旨を読み取る学習支援に加えて、英語の行間まで感じ取るための学習支援は、限られた授業時間の中では二の次になりがちであるが、この側面の紹介を一度だけでもすることで、学生の英語の世界観が少し広がりつつあるように見受けられた。学習のための英語学習支援としては、学生の視野が広がることは、大切な効果の一つであると筆者は認識している。

7. 英語自主学习支援

7. 1. 情報のやりとりのための英語力を磨く自主学习支援の例

7. 1. 1. 学習支援の目的・ポイントの例

学習の目的：情報のやり取りのための英語の基礎知識の応用。

学習のポイント：例えば英語の語順で洋画の台詞や TOEIC の英文を理解しつつ、シャドーイングをして、英語を聞き取る課題に取り組む。

7. 1. 2. 授業実践例

授業で学んだ洋画の台詞を、授業外でもその音声を聞いてシャドーイングをし、台詞を英語の語順で聞き取れるような課題を出す。(事前にその英語の音声を学生に貸し出したり、大学のポータルシステムなどにアップロードしたりして、学生が授業外にもその英語を聞けるようにしておく。)

7. 1. 3. 結果

この課題を素直に実行した学生は、映画英語が少しずつ聞き取れるようになっていった。

7. 1. 4. 考察

教師から指示されて行う課題学習には限界がある。よって筆者は、後述するような自主学习につながる課題も、学生に出している。

7. 2. 情報のやり取りを超えた英語の世界に触れるための自主学习支援

7. 2. 1. 学習支援の目的・ポイントの例

学習の目的・ポイント：英語の自主学习をする。自分で興味を持った英語を見つけてそれを聞いたり、読む。楽しんで英語を学ぶ体験をする。あるいは、自ら英語に関して疑問を持つ。

7. 2. 2. 授業実践例

学生の自主学习に繋がる課題を出す。学生は、自分が興味を持った英語(映画・音楽・ニュース・専門書など何でも可)を読んだり聞いたりする。その概要と感想をレポートにまとめ、感動したり疑問におもった英文や英単語、パラグラフなどを書き出して、それについて自分で調べたことをメ

まして、レポート課題を提出する。筆者はそのレポートを通して学生の現状などを見て、随時アドバイスする。

7. 2. 3. 結果

英語学習への意欲が旺盛な学生たちや、英語の食わず嫌いだっただ学生たちの多くが、映画や音楽の英語の学習を授業で楽しんだ経験を活かして、自分で英語を選べることなどを楽しんで、この課題に取り組んでいる様子が観察された。英語について疑問を持つ体験をしたり、英語を通して自分が感動するものに出合ったことに、喜びを感じる学生も増えた。その反面、なかなか自主学習には結び付けられずに、教師から強いられた課題として取り組む学生もみられたため、筆者は学生の任意でこの課題を活用してもらうなど工夫をして様子を見た。学生のレポートから観察されたものから一例を挙げると、学生の英語に関する疑問は理にかなったものからその個人の繊細な感性が現れているものまで様々であったが、これについては項を改める。

7. 2. 4. 考察

学生の自主性を尊重するための課題であるが、筆者にとってもクラス授業ではなかなか知りえない、学生一人ひとりの英語との向き合い方の一つの側面を垣間見る機会となった。学習のための英語学習支援に徹する場合には、学生の選択を尊重して、自主学習を無理強いしないことが大切であると自覚している。

8. おわりに

情報のやりとりとしての英語力を磨くための学習支援と、心のコミュニケーションのための英語力を磨くことや、人間としての学習そのものが目的である英語学習支援は、それぞれ全く異なる教材を活用することで実践することも大切であるが、例えば本稿でも記したように、同じ教材を活用していても、その学習目的や学習の動機が異なることで、両者それぞれに応じた学習結果が出る傾向もある。情報のやりとりのための英語学習支援は、限られた時間内に明確な目標を達成するための行為の支援でもあるために、学習者に多少の負荷はかかるが、その負荷を学生が請け負うのであれば、短時間でも効果は上がり易いという特徴がある。また、心のコミュニケーションや学習のための英語学習には、教師も学生もその個人がそれぞれ人間として学習し、精進することなども求められるため、その支援の実践は容易ではない。そのため本稿では、情報のやりとりとしての英語学習支援の実践例をベースに、その枠を出た英語の世界の学習支援も試みる実践例の風味も加えて記した。同じコーヒーに砂糖やミルクをどれくらい加えるかなどで、その味わいが変わってくるのと似た、実験結果の例を記したものである。多くの大学生は大学卒業までの期間に、英語を運用するための能力を養おうとしている。その支援をすることは当然大切であると認識しているが、教師として遠い未来にまで想いを馳せるとき、学生が情報のやりとりを超えた英語の広い世界に触れることや、英語を通して学習するための学習支援を得ることなども、有意義なことであるようにおもわ

れる。現代を生きる学生が現在と未来を生きる時、グローバル社会を精一杯生き抜くための一助になることを希望しつつ、今後も本稿でとりあげたそれぞれの分野の英語学習支援などを、探究・実践していく所存である。

参考文献

- Andersen, H. C. (1997). *The Complete Fairy Tales Hans Christian Andersen*. London: Wordsworth Editions Limited.
- Ellis, R. (1994). *The Study of Second Language Acquisition*. Oxford: Oxford University Press.
- 小学館大辞泉編集部 (編集) (1995)。「デジタル大辞泉」, 東京: 小学館。
- 夏目漱石 (1978)。「私の個人主義」, 東京: 講談社学術文庫。
- 夏目漱石 (著)、三好行雄 (編集)、(1990)。「漱石書簡集」, 東京: 岩波文庫。
- 夏目漱石 (2007)。「文学論 (上・下)」, 東京: 岩波出版

(CD)

- Joel, B. (1998) . *River of Dreams*. [Music CD]. Sony Music Entertainment.
- Joel, B. (2004) . *Piano Man: The Very Best of Billy Joel*. [Music CD]. Sony Music Entertainment.
- Takada, T. (2015) . *Jyonetsu*. [Music CD.] Shiawasekobo.

(DVD)

- Cuaron, A. (Director) (2004) . *Harry Potter and the Prisoner of Azkaban*. [Motion Picture]. California: Warner Bros. Pictures.
- Edwards, B. (Director) (1961) . *Breakfast at Tiffany's*. [Motion Picture]. Hollywood : Universal Studios.
- メレンデス, B. (Director) (2009) . *Peanuts 1960's Collection*. [DVD]. New York : United Feature Syndicate, Inc.
- ミルズ, B. (監督) (1988) . 「シャーロック・ホームズの冒険 完全版—バスカビル家の犬」, Manchester: Granada Television Limited.
- Raimi, S. (Director) (2004) . *Spider-Man2*. [Motion Picture]. Hollywood : Columbia Pictures.
- Raimi, S. (Director) (2007) . *Spider-Man3* [Motion Picture]. Hollywood : Columbia Pictures.
- Spielberg, S. (Director) (1982) . *E. T. The Extra-Terrestrial*. [Motion Picture] Hollywood: Universal Studios.